宮崎県の主要都市における日豊本線の刷新した駅と駅前開発

熊野 稔　宮崎大学地域資源創成学部 教授／大学院農学工学総合研究科博士後期課程 教授

宮崎県下の昨今のまち中再生には，新鉄道駅と駅前開発の話題が欠かせない。ここでは主要な 3 駅の概要を紹介する。

■日向市駅

1921 年に富高駅として鉄道省が開設し，1963 年に日向市駅と改称された。2008 年 2 月竣工の現在の高架化駅舎は，延床面積 861m^2 で木造（地場産杉集成材）＋鉄骨造，鉄筋コンクリート造（高架部）。駅構内には物産館「まちの駅 とみたか」があり，特産品販売やレンタサイクルの受付等を行う。高架化により駅の東西の通り抜けが可能になり利便性が高まり，市内の交通渋滞も緩和された。また東口と西口駅前広場，交流広場（ひむかの杜），野外ステージ等も整備。1999 年度から 2028 年度まで計画された駅周辺土地区画整理事業（14.6ha）では道路や公園が整備された。駅舎を含めた駅周辺の再開発による景観は高く評価され，国土交通省の 2014 年度の「都市景観大賞」都市空間部門の大賞に選ばれた。

写真 1　日向市駅

■延岡駅

1922 年に開業し，2017 年 8 月に現在の新駅舎が開設された。2018 年 4 月には東西自由連絡通路が供用開始され，駅ビル複合施設「エンクロス」が開館。エンクロスはカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）が指定管理者で運営し，市民活動スペース，読書空間（TSUTAYA 図書館），カフェ機能等を備え，市民交流の拠点となった。各スペースや駅前広場では，様々なイベントが開催。延岡駅周辺整備プロジェクトは 2020 年グッドデザイン賞を受賞。また，2021 年に駅前再開発で 5 階建ての「延岡駅西口街区ビル」が完成し，現在 14 の企業や飲食店が入居。ビルには延岡市がコワーキングスペースとお試しサテライトオフィスを開設し，人々の交流やビジネスの機会となる場を提供して賑わっている。

写真 2　延岡駅

■宮崎駅

1913 年（大正 2 年）に宮崎県営鉄道の駅として開業した。開業当時の駅舎は空襲を受けて被災し，1950 年（昭和 25 年）に建て替えられた駅舎は昭和末期まで用いられた。

1988 年（昭和 63 年）に高架化工事が着工され，1993 年（平成 5 年）10 月 1 日に現在の駅舎が完成した。2020 年（令和 2 年）には宮崎駅と駅西口広場がリニューアルされ，駅前商業施設「アミュプラザみやざき」が新設した。本施設は JR 九州と宮崎交通による事業で，宮崎駅西口を出てすぐの 10 階建て「うみ館」，道路を挟んで向かいに建つ 6 階建て「やま館」，駅高架下商業施設のえきマチ 1 丁目宮崎がリニューアルした「ひむか きらめき市場」の 3 つを合わせた商業施設である。

「うみ館」は，映画館を中心に 7 階まで店舗が入り，8～10 階にはオフィスが入居した。駅のリニューアルではホーム別だった改札口を統一し，西口は「高千穂口（たかちほぐち）」，東口は「大和口（やまとぐち）」を愛称名として使用開始となった。西口駅前広場の屋根付きの「アミュひろば」も完成し，各種イベントで賑わっている。宮崎市は，アミュプラザみやざきの開設にあわせて，グリーンスローモビリティ『ぐるっぴー』の運行を開始した。ぐるっぴーは，「乗って楽しい」，「見て楽しい」，便利な「まちなか回遊モビリティ」をコンセプトに，宮崎駅周辺とまちなかを結ぶルートを 12 分間隔で運行し，1 回 100 円（小学生以下は無料）で乗車できる。

宮崎駅西口の再開発により，アミュプラザと近隣の商店街とを人々が「回遊」することでの市街地の活性化が期待されている。筆者は，2021 年度宮崎市地域貢献調査研究事業報告書にて，人の流れの双方向を促進する宮崎市中心市街地における魅力と回遊性の向上に関する研究を行い，**2 核 2 モール**のコンセプトのもと，ハード，ソフトにわたる提言を行った。

写真 3　宮崎駅